

## ■ 国有化と民営化

国有化と民営化について、経営的な面から考察する。一般企業は、社長を含む CEO がその責務を負う。国有企業は、政府が、社長であり、政府が責任を持って運営する。その最高責任者は、行政権の長である、首相あるいは大統領である。

アメリカでは、いつも資本主義的な傾向が強いようだが、重要な軍需企業に関しては、政府が株を強制買収するといった、社会主義的な手法を用いる。

日本では、靖国神社に A 級戦犯が祭られているのが、時々もんだいになる。靖国神社は、日本政府の所有物ではなく、首相はいかなる命令も靖国神社にだせないのである。そこが、問題である。首相の責任で遂行するために、靖国神社を国有化するか、別に、国の慰霊施設を持つ必要がある。

モンゴル等では、遊牧民がいる。遊牧民は、土地を所有せず、牧畜を移動させながら生活している。つまり、土地の管理は、政府の責任であり、これは、社会主義的である。だからすべての土地を私有化するという意見は、乱暴である。しかし、遊牧民の土地は、政府の土地であるから、政府が管理する必要がある。実際には、法律や行政で、たとえば、遊牧民の家畜の保有の最大量を制限する必要がある。そうして、草原を国が管理し、永続的に遊牧民が生活できる環境を、整えるのである。